要約：近年、若年から老年に至る全年齢層において、性に関する意識の変遷は著しい。中でも、思春期の若者の、刹那的・多様化した・不特定多数を相手の性行動は、性行為感染症・妊娠など大きな問題を引き起こす。我々は、次の3点に問題を絞り研究を開始した。

1）10代の性行動の実態はどうなっているか？
2）望まざる妊娠を防ぐための方針は何か？
3）妊娠した場合、医学的・社会的支援その他、何が必要か？

今年度は、文献検索、全国的現状調査、予備的意識調査、平成4年度実施予定の聞き取り調査に対する検討を行ったのでここに報告する。

見出し語：10代の性行動、性教育、10代妊娠の支援

研究方法：研究協力者は、それぞれの分野で思春期の若者と深い関わりを持って来た人達である。すなわち、

1）幼・小・中・高・大学で、直接性教育に携わる者。
2）性教育に携わる人びと（学校担任・養護教諭・看護婦・保健婦や思春期の子供達を持つ親その他）を指導する者。
3）臨床の場で若年妊娠に対し医学的・社会的支援活動を行う者。
4）現実社会の中で妊娠・出産に戸惑う若者に耳を傾け、医療者側・福祉関係への橋渡しをする者。
5）出生した子供たちを預かり、親子の社会への旅立ちを助ける者。
6）若年妊娠の成り立ち・現状および将来の諸問題を社会学的に捉え検討している者。etc.

この班員全体を3班に分け研究を進めた。

［Ⅰ］班　10代の性行動の実態

a）文献検索
b）アンケート調査による思春期外来施設及び思春期指導員の全国的活動状態の把握。
c）Zopp methodによる「10代の性行動の実態」研究方法の再検討。

［Ⅱ］班　望まざる妊娠を防ぐための性教育

a）文献要約。
b）10代妊娠の実態。
c）小学校教諭の性教育に関する意識予備調査。
d）全国的性教育講演における各聴衆の反応調査。

［Ⅲ］班　妊娠した場合の医学的・社会的その他の支援対策

a）文献要約。
b）乳児院の現状：統計、及び施設見学。（仙台乳児院）
c）聞き取り調査、予備検討。（八重山保健所・長池優生相談所）

結果：

［Ⅰ］班

a）10年間の文献、千数百件（医学・社会・心理・教育などの分野を含む）。数年間では、443件。英文68件、和文375件。（表1）
詳細は参考①参照。

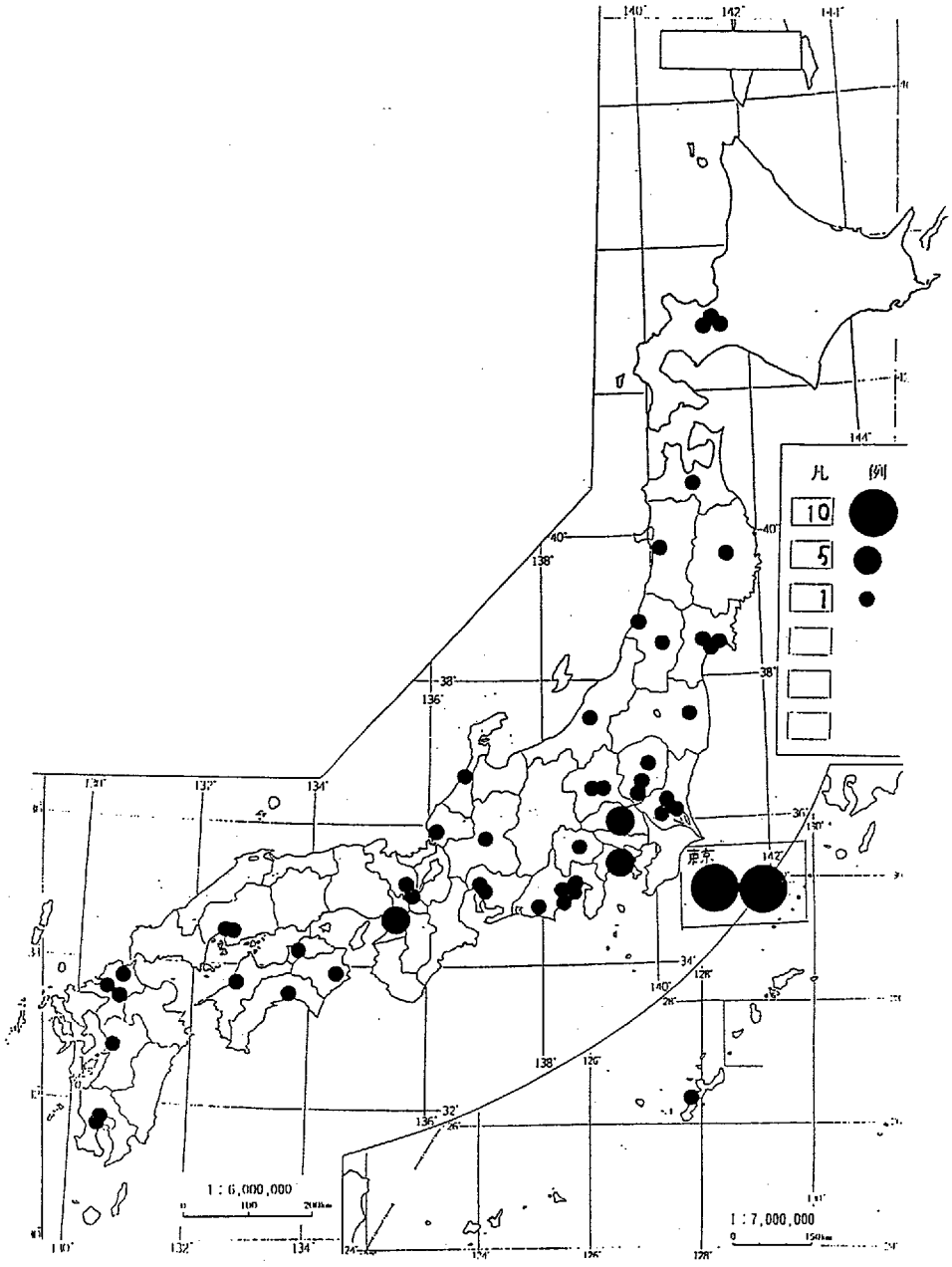
（表1）
思春期における性行動に関する研究の主要テーマ別文献

テーマ	和文	英文	合計
性意識	81	3	84
性行動・妊娠	89	11	100
避妊	19	10	29
人工妊娠中絶	12	12	24
妊娠・出産の結果と支援	25	26	51
性教育	149	6	155
合計	375	68	443

避妊、人工妊娠中絶、妊娠・出産の結果と支援問題を扱う国内文献の割合はいずれも外国に比し少ない。この大事な部門における今後の研究の拡大が望まれる。一方、性教育関係の文献は数多く近年の関心の高まりを示しているが、その殆どが学校における性教育に関するものである。今後は、地域との連携その他、有機的な性教育の発展が望まれる。

b）アンケート調査による全国思春期外来施設の分布状態を見ると、東京に施設の集中が見られるが、全国的にもかなり広がりを見せている。（図1）

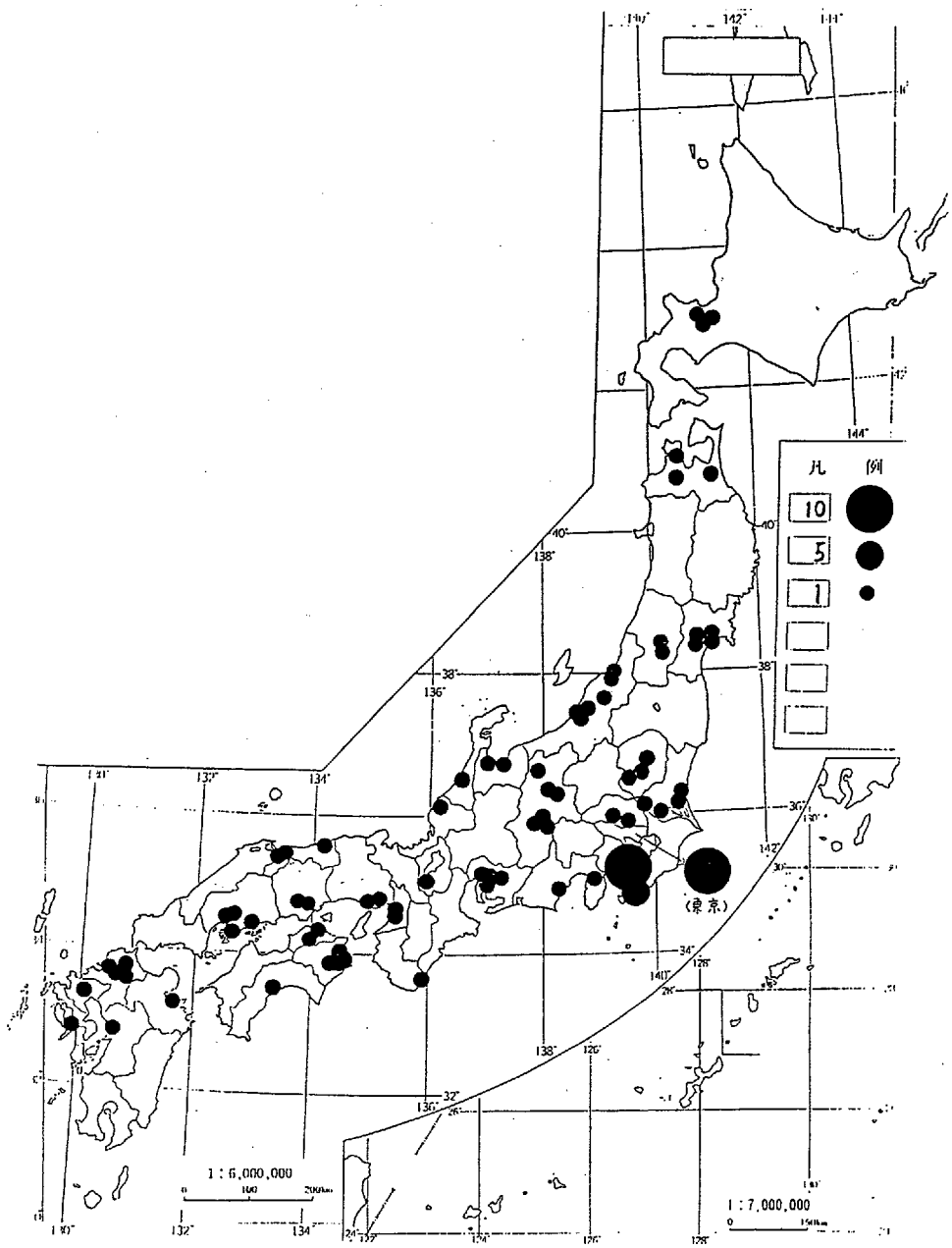
図1
思春期外来施設分布



思春期指導員育成の結果、育った人々、その他を中心とする全国の思春期相談施設の分布は思春期外来施設に比しかなり大きな広がりを見せている。（図2）

c）Zopp methodによる検討：検討会のメンバーに、従来の大人たち以外の当事者、すなわち思春期にある若者を参加させた。性行動に至る要因のうち相手の存在の重要性、マスコミの影響に関する作用機序など追加すべき視点が浮かび上がってきた。（図3,4,5）

図2
思春期相談施設分布



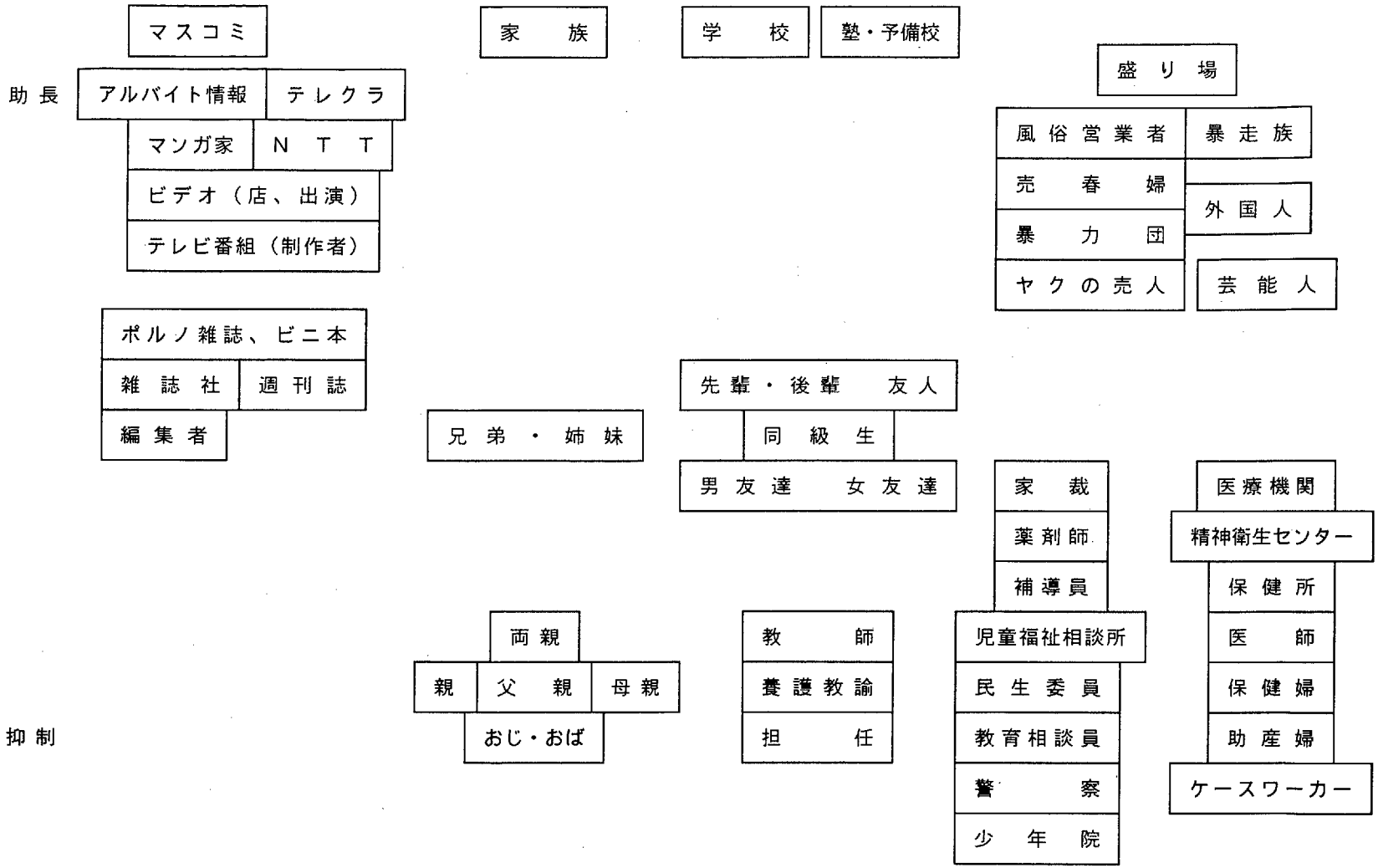


図3　ZOPPメソッドの例（思春期の性行動の関係者）

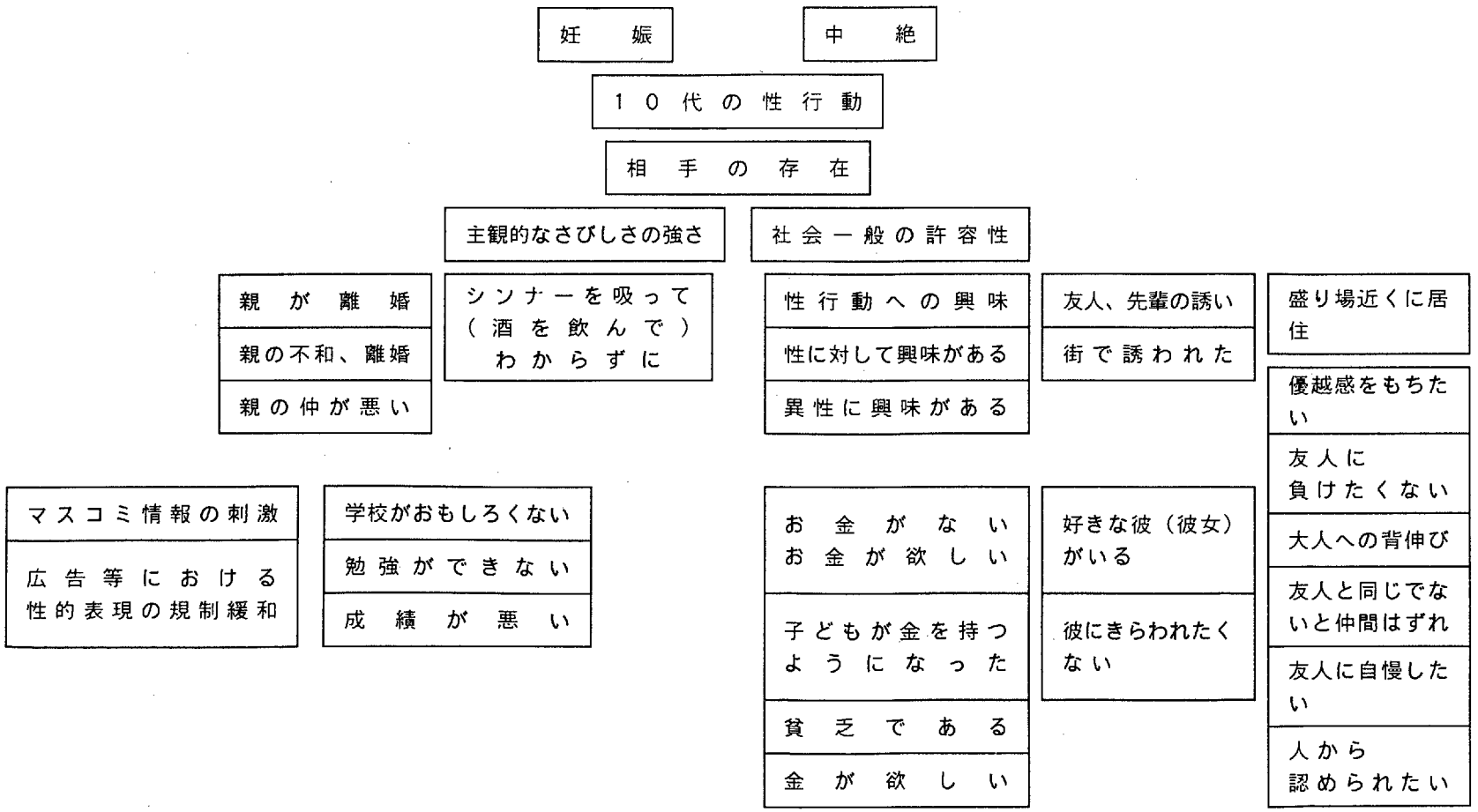


図4　ZOPPメソッドの例（思春期の性行動に至る要因）

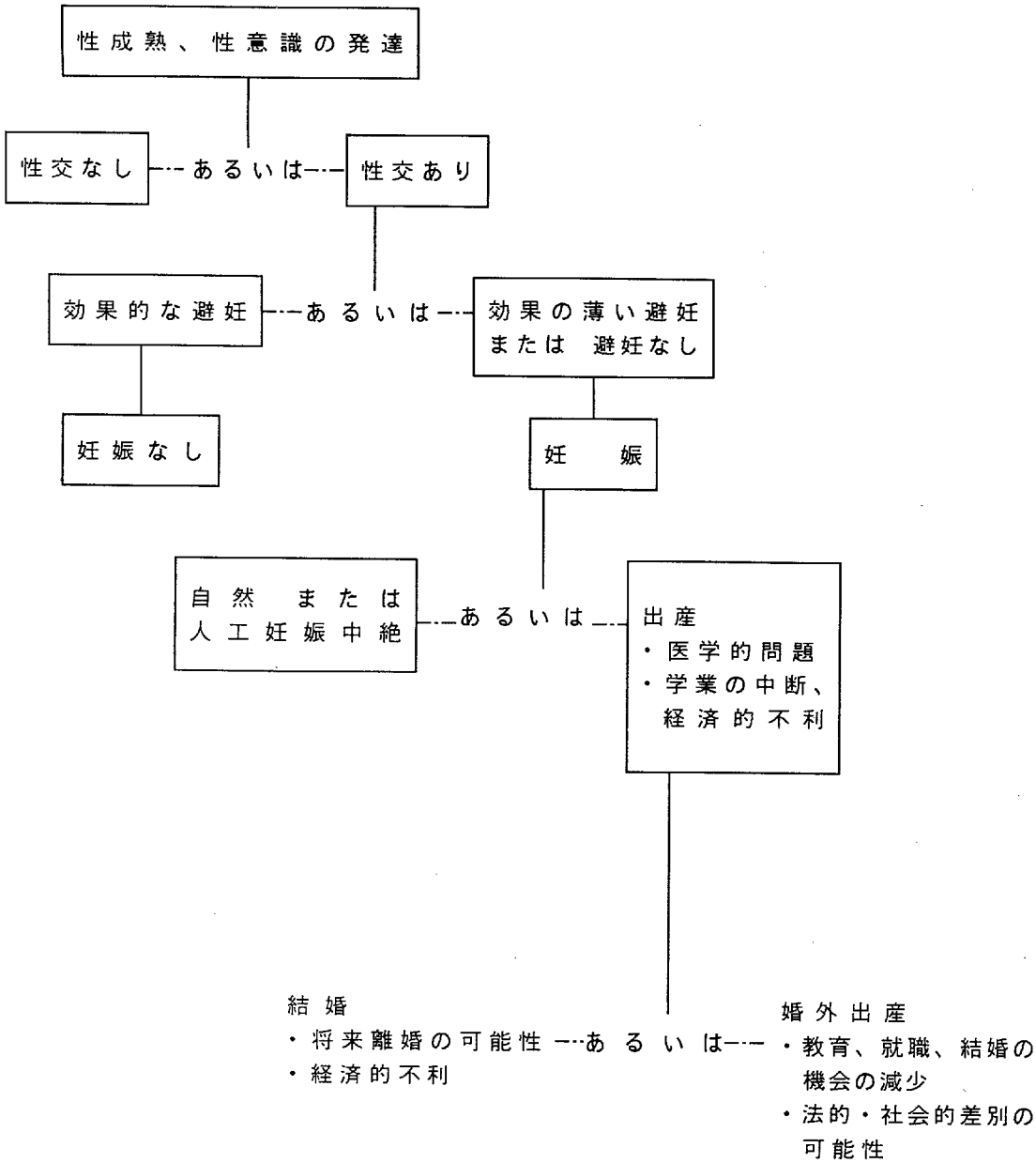


図5　思春期の性行動のフローチャートと起こり得る結果

(注) Population Reports, J, 10 (1976) より改変

［Ⅱ］班

a）性教育に関する教師の予備意識調査

参考②③

予備聞き取り調査　　129名。（男性53名、女性76名）

アンケート回答者　　62名。（回収率140名中　62名　44％）

図6.　面接対象者　67名の男女比

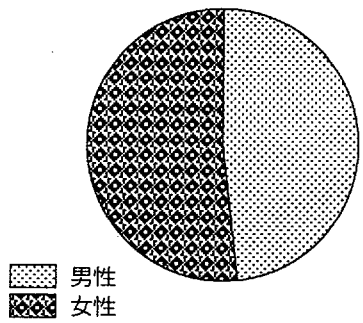


図7.　性に関する授業をしたことがあるか

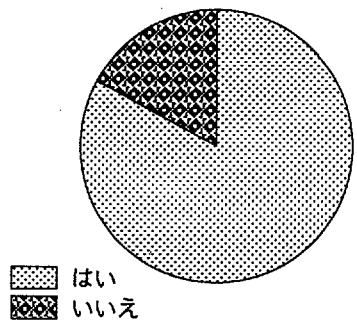


図8.　改訂版保健・理科の教科書に目を通したか

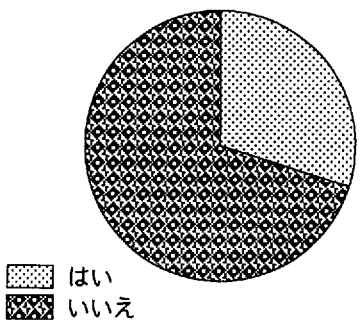


図9.　来年度の準備を始めているか

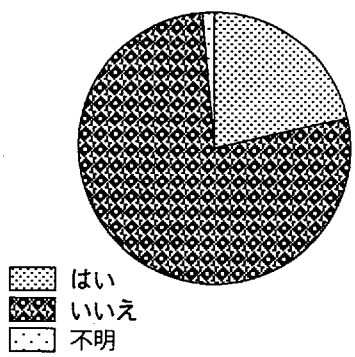


図10.　小学生に性交を教える必要があると思うか

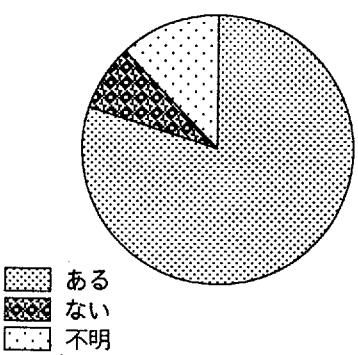
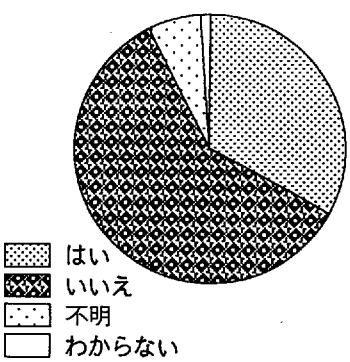


図11.　いよいよ性教育が始まったと思うか



その他
①あなたが考える性教育のメインテーマは何か、
②小学生の性意識と性行動の問題点は何か、
③性教育を始めていく上に障害になるもの（あなた自身・学校・社会的問題として）は何か、
④性教育を進めていく上で今一番欲しい教材は何か、
⑤養護教諭・管理職、教育委員にはどんな協力をして欲しいか、
⑥医療関係者・保護者にはどんな対応をして欲しいか、
などの設問を設けている。

参考②③ に見られるような、性教育の必要性を感じながらも戸惑い・不安・期待・自信を持つ教師たちの姿。それらを介して、今後の性教育に対する問題点が示唆される。

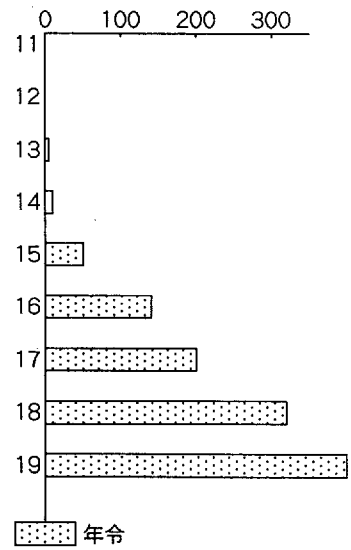
b）臨床の現場で感じる性教育の必要性（十代の妊娠1,076例の分析その他を参考に）：産婦人科の世界43、319、1991、河野　美代子

（表2）10代の受診総数と妊娠数

（1981. 11～1990. 4）

診療者数	4,114 人
妊 娠 数	1,076 例

（図12）妊娠例の年齢別内訳



（表3）妊娠の転帰（1,076例）

分　　娩	186	(19.9％)
人工妊娠中絶	695	(74.3)
自然流産	47	(5.0)
子宮外妊娠	5	(0.5)
胞状奇胎	3	(0.3)
計	936	
経過不明（転院を含む）	140	13

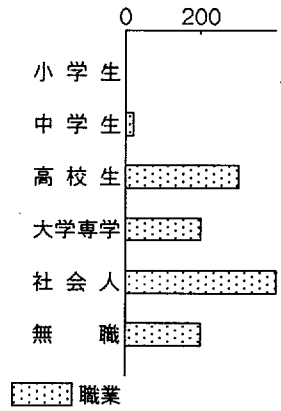
（表4）人工妊娠中絶の内訳

11週まで	553	(90.6％)
11～23週	133	(19.4)
中絶時期不明（他院）	9	
計	695	

（表5）10代で出産した90例の（年齢別内訳）

15	1
16	6
17	15
18	17
19	51

（図13） 妊娠時の職業別内訳　1,037（不名39）

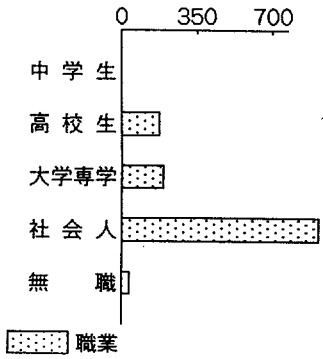


（表6）妊娠例の相手の男性の年齢別内訳（判明　985例）

14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25～29	30～
3	13	33	83	149	201	156	124	64	40	31	51	37

482 ← —— —— → 503

（図14）相手の男性の職業別内訳



（表7）妊娠例の避妊法（判明したもの）

避妊なし	486
コンドーム（時々）	346
コンドーム（いつも）	90
膣外射精	102
オギノ式	10
フィルム	2
B B T	1

思春期の妊娠の多くが（74.3％）人工妊娠中絶に終わっていること（表2）実際には育てられないのに人工妊娠中絶の時期を失って、やむを得ず出産に至るもの。10代妊娠の相手の半数以上が20才以上の男性であり、女性の多くは高校生、相手の男性の75％が社会人であるという事実（表6、図13、14）。これらを考えると、性教育の範囲を学校教育の場から、さらに広く社会人の生活の中に取り込むことも必要ではないかと思われる。

c）講演活動における現状分析と今後の見通し

対象；①P.T.A.、教育委員会、性教育関係団体、都道府県・保健所・母子センター主催：思春期の子供を持つ親、学校教諭他

②大学：保健管理センター、大学祭・女性学講座（一般公開）

③その他養護教諭、学級担任、保健婦、看護婦、カウンセラー、福祉関係、警察関係、小学・中学・高校・大学生

婦人保護行政機関

内容：①思春期とは。②性教育はいかにあるべきか。③大人が自分自身の体を知ること。④AIDSその他のSTDと若者の性。⑤婦人相談実態の中の思春期・売買春・未婚の母。⑥来年度から実施される小学校教育の中の性教育と学級担任・養護教諭のあり方・親のあり方。

印象：①男性の出席者は非常に少ない。女性は自分自身の体について（更年期を含めて）関心が強い。

②教師も親も自分自身の体を知らない。母親は体と心の変化とくに男子について関心が強くその対応に苦心している。

③来年度からの小学校教育の中の性教育について受入準備は極一部を除き、非常に貧困である。上層部は対策に当惑し、担任はまだ他人事のように思っている。性教育に関する準備をするには教師は忙し過ぎる。都市部を離れるほど、保健婦その他指導者の関心はありながら実施にためらいがある。

対策：①男性の関心を喚起する必要がある（妊娠・出産・中絶に無関係ではない）。

②小学校の問題に続き、中学・高校における性教育に関する指導要綱の変革が早晩行われると思うのでその対策が必要である。

③小学校教育の変革を機会に、性教育について家庭との交流を図ること。

④大学教育の中に性教育、男性学・女性学・人口問題等が必要である。

⑤思春期指導員などを介して郡部での要求に応えたい。

［Ⅲ］班

a）文献要約

①妊娠に至るまでの家庭環境・成育歴・両親の不和・片親不在の影響、友人関係・これらから来る非行・喫煙・シンナーなど薬物使用・性交渉・退学・家出・暴力団との交わり・売春など様々な問題を抱えている子供達。

②非行とは全く関係なく普通の家庭の普通の子供達。

いずれの集団に属していても、妊娠・人工妊娠中絶・中絶の時機を失しての出産・心から希望しての妊娠継続。その間の心理不安・精神的葛藤・相手の男性や家族などとの対人関係・妊娠および出産に際しての費用・生活費・養育費、生活の場・さらに就学・就職・育児など、問題は限りなく山積みである。

問題が深刻化する前の相談所、カウンセリング、思春期クリニックなどの施設や対応、性教育、が根源である。

具体的に、教育面で高校卒業希望者には、それに適した対応を整える。生活の場・生活の手段・社会適応への援助・社会福祉制度の拡充を考える必要がある。

社会的通念・偏見の再構築は出来ないだろうか。このような観点から2～3の文献を紹介する。

★ハワイにおけるカピオラニ婦人子供医療センターにおける妊娠への援助について

①カウンセリング・サービス

②妊娠疾患育児教室；妊婦とそのパートナーを対象に

③コンピューター・アクセスサービス

④講演など

3時30分～5時30分の2時間、1年間に5回の教室が、州の教育局から高校の授業単位として認められている。授業内容については（表7）参照。

★ハワイ州におけるファミリープランニングサービスについて　池上千寿子

①14才以上、無料でサービスが受けられる。

②医学的検査：婦人科検診。乳房検診、子宮癌検診、STD検査

③妊娠テストと避妊、中絶カウンセリング

④各避妊手段の指導と処置、処方

⑤セックス・出産計画のカウンセリング

これらが数年前から行われている。国状の違いがあるとはいえ学ぶべきところは学び備えていきたいと思う。

★ソーシャルワーカーのダイヤグラム（10代の妊産婦とその家族への対応）　堤氏

①不適応の症状：心理的・社会的・具体的

②文化形態：政治・社会・経済の状態、家族の形態

③処遇：自分環境強化の処遇・医療・経済・社会保障の処遇・人間関係調整の処遇

④知識・家庭：ソーシャルワークの援助過程（経済的・制度的・人的・機関的・その他の資源活用）

⑤対象の転帰：本人育児（自宅・実家・母子寮）、乳児院、養子縁組、人工妊娠中絶、その他

⑥援助のネットワーク：家族・身内関係、福祉機関関係（福祉事務所・児童相談所・乳児院・母子寮）

⑦社会適応：擁護・生活の確保

b）乳児院の調査

① 全国の乳児院118施設を対象の調査 参考4 を見ると、設置主体・経営主体の70～80％は社会福祉法人であり、平成2年度入所時の母の年齢は20～30才未満が多く42.1％を占め、20才未満は2,645人中266人10％であった。

母の全年齢層について、入所時の子供の年齢・家族構成・父母（？）の学歴および職業・入所理由その他の記録もある。これらを20才未満に絞り聞き取り調査を行うことは、10代妊娠支援組織検討に有益と思われる。

② 仙台乳児院見学：定員30名。昭和30年創立の歴史を持ち、昭和35年～平成2年の35年間に984人の入所者があり、婚姻によらぬ出産などの入所理由その他も明記されている。乳児たち、個々の記録も整理され、母と介護者との心のつながりも強く上記の聞き取り調査の場として適当と思われる。（表8,9）

（表8）未婚ケース数（内縁関係を除く）

	入所	未婚
昭和60年	12名中	3名
昭和61年	20	0
昭和62年	17	3
昭和63年	14	2
昭和63年	12	3
平成2年	13	4
平成3年	15	2
合計	103	17
		(16.5％)

（表9）未婚17名のうち、20才未満は10名

本人		相手
17才	中学卒	不明
16	中学卒	行方不明
19	高校卒	認知
19	高校中退	離別
19	高校卒	不明
15	高校中退	中学の友人
17	高校中退	離別
15	美容学校中退	中学の友人
18	中学卒	不明
17	中学卒	離別

c）八重山保健所の保健婦による若年出産にたいする聞き取り調査参考5を参考に、次年度聞き取り調査計画案作成。井上民子：昭和61年度特別演習録、国立公衆衛生院　198p

全国統計で19才以下の出産は、全出産の1.2～1.4％に過ぎないが、八重山は2.3～3.5％に及ぶ。

昭和59～61年に出産した20才未満の女性とその夫を若年夫婦と定義し、対象群として、同じ頃に第一子出産の25～29才の女性とその夫を選んだ。各々55組。

本人の社会的・経済的・精神的問題を調査することにより、思春期における問題点をより具体化することが目的である。

d）長池優生相談所における若年妊娠の聞き取り調査

女医・保健婦の取り組みによる長期に及ぶ実績がある。仙台乳児院とも連係があり症例研究の場として適当と思われる。

考察

文献から見た注目度の差：避妊、人工妊娠中絶、妊娠、の結果に対する支援は、いずれも外国に比べ少ない。妊娠・出産の結果に対する支援は地域ぐるみの取り組みの求められるテーマでもあり、今後、さらに検討が必要である。

思春期外来・思春期相談員：成果を上げつつある、これらの施設・人材の充実と拡大、相互連携を図り、思春期の子供達およびそれを取り巻く人々との気安い交流の場にしてゆきたい。

10代妊娠の現状：10代妊娠は、その成育歴に問題を抱えた人々の間にのみ起こる出来事ではなく、ごく普通の、われわれの身近にいる子・孫・甥・姪・友人の子達に起こっていることを銘記しなくてはならない。また、10代妊娠の相手の75％が社会人である現状を考える必要がある。

性教育の現状と対応：①子供達はどのようにして性情報を入手しているか　②子供達と性産業の現状はどうか　③性教育担当者（機関）の状況は　④性教育の普及を阻むものは何か　⑤どのような性教育を、どのように進めるか　⑥子供達の家庭・夫婦・子供・社会に対するイメージはどのようなものか、など解明しなくてはならぬ問題は多々ある。

平成4年度から文部省の新指導要項で行われる性教育に関して戸惑いを隠せぬ関係者には一層の努力・発展を望み、各分野での助力を惜しまないが、同時に、今後行われるであろう中・高校の性教育、現段階での父母の家庭内での性教育、さらには、絶対必要な問題である大学での男性学・女性学、社会教育の場での性教育実施について検討してゆきたい。

10代妊娠に対する支援：少数派ではあるが、出産を希望する者にとっても、また、多数派である出産を考えられない者にとっても、若年妊娠のもつ問題は大きい。一般社会の人々が若年妊娠をどう捉えているか再検討しながら、既存の施設の活性化・施設相互の連係強化、海外の施設・制度の検討、などを行いつつ独自の支援活動の確立を目指し、全員の協力により具体策を確立したい。

Abstract

Sexual attitude and behavior in adolescent

Masako Horiguti

別冊：

1）文献集

和文　375件、英文　68件、（項目別）

2）性教育に関する現状・予備調査書類

3）面接による性教育に関する教師の意識調査のまとめ

4）乳児院全国調査報告書

5）八重山保健所、聞き取り調査・調査書

[青少年対策関係機関]
(都道府県)
知事
婦人相談所
児童相談所
福祉事務所
保健所
公安委員会、警察本部
少年指導委員
少年補導員
教育委員会
(市町村)
市町村長
福祉事務所（市のみ－家庭児童相談所）
教育委員会

[法令による青少年の呼称及び年齢区分]
少年法－少年、20才未満
児童福祉法－児童、18才未満　乳児、1才未満
幼児、1才から小学校就学の始期に達するまでのもの
少年、小学校就学の始期から18才に達するまでのもの
民法－未成年者、20才未満
婚姻適齢、男満18才
女満16才
未成年者は、父母の同意を得なければならない。

性教育担当者（機関）	対象
日本性教育協会	教員・保健婦・父母
日本家族計画協会	教員・保健婦・父母
日本母性保護医協会	医師
日本思春期学会	医師・看護婦・助産婦・保健婦・カウンセラー
教育委員会	教員・父母
小中高PTA	父母
教職員組合	教員・父母
“人間と性”教育研究協議会	教員・保健婦・父母
各種学校保健会	教員・医師
各種養護教諭の会	教員
都小中高性教連	教員
NHK学園生涯教育	一般市民
各種電話相談	子供・父母
各種教育相談	子供・父母
各種社会教育機関	父母・市民
“人間と性”教育研究所	教員・父母
田能村教育問題研究所	教員・父母
「性を語る会」代表、北沢杏子	子供・父母・一般市民

「性教育に関するアンケート調査」
「あなたとわたしと性」Nr　6から
「性を語る会」 北沢杏子

1988.1　アーニ出版
要約　堀口雅子

●調査の対象と方法
分校を除く全国の小学校（23, 949）
中学校（11, 014）
高校　（ 5, 304）

宛名：「養護教諭」及び「保健体育担当」
「性教育アンケート（全国調査）にお答えください」と封筒の表に併記。

回収率　%		回答者割合　%			
		養護	教科	女	男
小学校	28. 9	91. 9	3. 1	95. 1	2. 6
中学校	23. 6	82. 6	12. 1	91. 1	5. 2
高校	16. 8	68. 3	26. 2	79. 0	17. 5
計	25. 9				

養護教諭したがって圧倒的に女性が多い。

アンケート質問項目

①あなたの学校では性教育を行っていますか。
②何年生を対象に、誰が、どのような形で、何時間？
③現在の性教育のあり方に満足していますか。
④児童・生徒の反応はどうですか？
⑤性に関する質問や悩みの相談を受けたことは？
⑥性についての教育は行いにくいですか？
⑦性教育で教えている内容（項目）は？
⑧特に教えにくい項目は？
⑨「性教育は寝た子を起こす」という考え方をどう思いますか？

結果のまとめ　　――――小・中・高の比較――――

①性教育の実施状況

小学校　9割
中・高校　7割　} 問題は内容である。

もっとも多かったのは、
小学校　年間1時間以内
中・高校　年間2時間～3時間　}

まだまだ形だけの性教育であろう。

②誰が行っているか

小学校　養護教諭と学級担任が半々。
中学校　養護＋担任＋保健体育の教諭
高校　保健体育（主）＋養護・担任

③教えている内容の上位3項目

	小	中	高
1	2次性徴	2次性徴	男女交際と責任
2	性器・性機能	性器・性機能	中絶
3	生命の誕生	男女交際と責任	避妊

④児童・生徒からの質問の上位3項目

	小	中	高
1	月経不順	月経不順	月経不順
2	2次性徴	男女交際	妊娠のしくみ
3	初潮	妊娠のしくみ	男女交際

⑤一番教えにくい項目

小	中	高
性交	避妊	愛情

共通しているのは、性にまつわる恥ずかしさを教える側がどう克服するかという悩み。性交や避妊などを具体的に教えていいのかという不安。性を取り巻く矛盾をどう教えればいいかという戸惑い。

⑥性教育を阻むもの

学校の体制の不備

マスコミによる歪んだ性情報の氾濫

教える側の性意識

小学生

●性教育＝初潮教育の概念の者が多い

●乳幼児期の性教育が家庭でなされていないための困難。母親への教育の場の必要性。

●何でも学校におんぶ、家庭の取組が大切。

●教育開始は早いほどいいが、5年生からの単発授業ではやりようがない。

●低学年まで手が回らず、性教育に先入観の入ってしまった後の指導になってしまう。

●年配の男性教師に見られる拒絶感。

●形式化し、人間教育にはほど遠い。

●子供達の反応は、真面目に聞く（51. 5％）、興味を示す（28. 8％）、恥ずかしがる（10. 5％）、反応がない（1. 5％）。

●保護者が若くなったせいか、1年生からきちんと教えてほしいという要求が大きい。

中学生

●生徒達の反応は、個人差が出てきてまちまちであるが、真面目に聞く（39. 4％）、興味を示す（30. 4％）、恥ずかしがる（6. 6％）。

●生徒からの相談は、月経不順（53. 4％）、男女交際のあり方・異性（28. 6％）、妊娠の仕組み（19. 0％）、2次性徴の変化（18. 4％）、性器の発育（13. 7％）、性体験・妊娠の疑い・マスターベーション、おのおの10％前後。

●性教育の難しさを痛感し、性交は教えても避妊・中絶まではどうか、と意見の別れるところである。

●性＝sexという考え方が問題で、生きる性としてとらえれば、もっと自然である。

●知らないうちに子供ができた、というような生徒を一人でもなくしたい。無知による悲劇こそ問題である。

高校生

●生徒達の反応は、真面目に聞く（41. 0％）、興味を示す（32. 5％）、恥ずかしがる、その他はいずれも5％以下。

●年間時間数4時間以下が全体のやく半数。保健体育教師・体育教師が保健体育の時間に行うことが多い（31. 3％）。養護（20. 0％）、担任（15. 0％）。

●生徒からの相談は、月経不順（45.7％）、妊娠のしくみ（33. 4％）、男女交際のあり方・異性（31. 9％）、その他妊娠の疑い・中絶・避妊の方法など妊娠に関係する具体的な質問相談が多い。

●教師にとって、愛情・男女交際と責任、など精神的なものが教えにくい。性の商品化された現実と授業のギャップが問題になったり、教師自身の広い教養と人間性が必要になるその他の理由から。年齢・性別により回答にばらつきが多い。

このアンケートは全国の小・中・高校の4分の1の回答に過ぎぬという問題はあるが、何らかの示針を与えるかと思う。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:近年、若年から老年に至る全年齢層において、性に関する意識の変遷は著しい。中でも、思春期の若者の、刹那的・多様化した・不特定多数を相手の性行動は、性行為感染症・妊娠など大きな問題を引き起こす。我々は、次の3点に問題を絞り研究を開始した。
1)10代の性行動の実態はどうなっているか?
2)望まざる妊娠を防ぐための方針はなぜか?
3)妊娠した場合、医学的・社会的支援その他、何が必要か?
今年度は、文献検索、全国的現状調査、予備的意識調査、平成4年度実施予定の聞き取り調査に対する検討を行ったのでここに報告する。